第一回調査研究検討会議が開催される（１）

平成２９年１０月１９日

文部科学省の研究指定を受けている「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」に関する第１回調査研究事業検討会議を実施しました。名古屋大学大学院教育発達科学研究科の久野弘幸准教授をはじめ、検討委員の方々に御列席いただき、本校の取組についてご指導をいただきました。

校長　開会挨拶

学校支援課長の事業説明

久野弘幸准教授による「新学習指導要領と高校における授業改革」と題するで講演には、本校の全職員も聴講しました。授業の体質改善では、「明誠スタイル」の授業スタイルの開発と励行が大切であると述べられました。総合的な学習において、探求的な授業への改善が進まない学校と進めている学校との間で全国学力調査の結果に大きな違いがあることがわかりました。小学校の学習指導要領総則で示された生活・総合の学びが、他の教科に影響を与えて学習指導要領が完成されてきた背景についても触れられました。

名大 久野先生の講演

教育課題の三つの柱について「知識・技能」に関しては、「生きて働く知識・技能」という捉え方がなされており、「生きて働く」とはどういうことかということを説明していただきました。知識は「個別的・断片的知識」（生きて働かない知識）と「構造的・関連的知識」すなわち概念と呼ばれるものとがあり、後者が「生きて働く知識」であり、今後はこうした概念と呼ばれる知識が重要であることを力説されました。職員から知識の獲得と形成の違いについて印象的で、とても勉強になったという声が聞かれました。

【育成を目指す資質・能力（三つの柱）】

・「学びに向かう力・人間性等」

→　どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力）

・「知識・技能」

→　何を理解しているか、何ができるか（活きて働く「知識・技能」の習得）

・「思考力・判断力・表現力等」

→　理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる力）